

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年六月度 入選句（投稿総数二千五百七十七句・一般投句数六百二十六句）

特選

郭公の 餌の んびり 握り 飯 安八郡輪之内町 野村 照子

先ず、この句を見た時感した事は、杉田久女の句「餌して山ほととぎすほしいまま」であった。
ほととぎすは、高い声ではげしく鳴くそれに反して郭公はゆつくりと軟くのんびりと鳴く。のんびりと言う表現がぴつたりである。又下五の握り飯が非常に上手である。

肩車されて山車へと稚児役者 不破郡垂井町 高木 初枝

今年の大垣祭の日は私の所属する古志の主宰、大谷弘至先生が吟行の為に見えた。（前主宰は長谷川權先生）その時、色々な山車を見た。特に鯰の山車が八幡さんの前で実演されて拍手喝采であった。

特にこの句の様に父親が肩車して娘を山車に載せた所に交した。
当然句会では鯰の山車の句が数多出た。これからも大垣の山車祭を大切にして欲しい。

嫁となりやうやく馴れし夕蛙 不破郡垂井町 中西 弘子

この年令になると、家庭の大切さ（特に夫婦）を痛感する。
私の勝手な解釈かもしれないが、奥様が他県から大垣に嫁いで来て、主人の御両親がみえる大きな家を想像する。季語の夕蛙が非常に良い。
この家の和やかさと嫁の大垣に馴れた安堵感が感じられる。

秀逸

チャーハンのでっぺん小さき鯉のぼり 養老郡養老町 山田 順子

老鷲や番所名残りの鬼瓦 福井県敦賀市 山田 美千代

遠く来て夏鷲に迎えられる 三重県三重郡 進士 順子

新樹光入れ夜詩偲ぶ館かな 三重県三重郡 大橋 徳紀

それぞれによき名貰ふや花菖蒲 大垣市 村田 通夫

卯の花に口遊み初む童謡 大垣市 澤井 国造

新道へ交じる旧道麦の秋 大垣市 野村 多佳子

反抗期過ぎて素直に葱坊主 兵庫県神戸市 岸下 庄二

廃線の線路掠める夏燕 大阪府東大阪市 森 佳月

麦熟るる故郷にいま帰り来て 神奈川県横浜市 龍野 ひろし

入選

出入研ぎて家族待ち受く初鱈
山笑うパノラマ席のハイウェー
「春よ来い」口ずさむ病室の窓
ぼうたんの白を残して暮れにけり
歛びが背ナにあふるる入学児
この先は神の領域花こぶし
万緑の水嶺湖畔音楽堂
竹の子の皮脱ぎ天を目指しけり
薫風を社に賜ひ深呼吸
初鱈はやも徳利の二本空く

安八郡神戸町	大槻	恭子
羽島市	伊藤	みさの
大垣市	佐久間	敏雄
不破郡垂井町	中嶋	笑子
大垣市	高瀬	鈴子
不破郡垂井町	吉野	君美
三重県三重郡	奥寄	富子
大垣市	大杉	すみゑ
大垣市	喜田	守
養老郡養老町	田中	紫香

入選

筍を料理上手に届けたり
紫陽花の折り紙楽し小さな手
身の色を変へてジャンプの青蛙
明治なほ熱く語りて夏帽子
時計草頭につけて空を飛ぶ
夕汽笛町場を掠む黒揚羽
母の日や妣の物差たんすより
山裾を貨物列車や麦の秋
船頭の青い法被や若葉光
建売の旗の靡くや梅雨晴間

岐阜市	村瀬	慶祐
京都府宇治市	上野	忠夫
大垣市	早崎	美弥子
大垣市	新町	恵子
大垣市	小林	研
栃木県那須塩原市	垣内	孝雄
安八郡神戸町	高橋	泰
大垣市	高石	政明
愛知県安城市	清水	佳子
三重県津市	村山	好昭

選者吟

月光に触れて実梅の落ちにけり